

## 編集後記

『岐阜聖徳学園大学国語国文学』第四一号をお届けします。

令和三年度も、新型コロナウイルス感染症は続きました。夏のデルタ株による第五波、そしてこの冬のオミクロン株による第六波。

思えば、国民世論を二分するなかで、七月二三日から八月八日まで東京オリンピックが開催され、その一方で、ワクチン接種が大規模に行われていきました。秋になり、対面式の授業も可能となり、遠出もかなうようになったと安堵も束の間、年末から第六波が拡大し、とくに小学校、幼稚園、保育園の休校・休園が急増しています。

こうしたコロナ禍の「巣ごもり」なか、詩・俳句・短歌が読まれていると聞きます。しまい込んで忘れかけていたものを見つけて出すような感覚で詩の世界・日本語の世界が求められているのかもしれない。

こゑひくき帰還兵士のものがたり焚火を継がむまへにをはりぬ

——斎藤茂吉『小園』

(中村 記)

岐阜聖徳学園大学国語国文学 〈第四十一号〉

令和四年三月十日 印刷

令和四年三月十五日 発行

編集・発行 〒501-6194 岐阜県岐阜市柳津町高桑西一丁目一番地

岐阜聖徳学園大学

国語国文学会

代表 中村 哲也

印刷 〒440-0084 愛知県豊橋市下地町字宮腰二四

（株）イシグロ高速印刷

TEL(〇五三三)五四―一四九六

FAX(〇五三三)五四―二七三六